

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年五月
しーしー 順一				ひろし つぶ金 凡士 かれん 絵夢 楽 鶴城	かれん 絵夢	ひろし	暦文 土璃		土璃 しんい		展平 永春 駒梗 舟城 鶴城		はっち	はっち	
朝五時の薔薇ひそやかに濡れてゐる <small>雨でしようかね。露や霧が原因だったのかも。</small>	短冊や七夕竹の天辺に	春落ち葉囁くやうにイヴ・モンタン	ツーランは九回の裏風薫る	嫋やかに風のあやとり糸柳 <small>風のあやとりの表現が良い。「嫋やかに」の措辞が好き。糸柳を風のあやとりとしたところが良かった。風のあやとりにやられました。</small>	柳絮舞う風の薄衣すべりつつ <small>柳絮が舞っている様子を薄衣と例えたところが良かった。繊細で美しい透明感のある句。</small>	急降下羽根をV字に夏の蝶 <small>確かに降下の時はV字の羽 観察が鋭い。</small>	海が呑む大きな入日の立夏かな <small>海が呑むの表現が上手い。ダイナミックな景がいいです。</small>	君の肩に暫し休める天道虫	山里の一流のみの鯉幟 <small>過疎村か。子供を大事にしていることが伝わります。人口減少嘆く村にめでたく男子誕生。</small>	摘草や指先に香を忘れをり	一日を五月の空の中にをり <small>爽やかな1日ですね。五月晴れが目にかかびます。</small>	最後まで残してしまおう桜桃	蠅打ちで一茶になれぬ我が身かな <small>私も一茶にはなれません。</small>	詰め放題袋は宇宙薄暑光 <small>袋は宇宙の表現が面白い。</small>	
くるみ	春駒	瞳人	雪待月田猫	光雲2	ありぎりす	しーしー	河野凡士	森 佳月	つぶ金	米山カロ ーリング	新井のり子	宇田靖之	北郷興亜	展平	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年五月
音思 米山	ひろし 凡士 春駒 瞳人 しーしー 楽	光雲2 朝子 総太郎	幹子	田猫			のり子 くるみ 霜里 しんい 鶴城			喜夫 田猫		名負人		山 喜夫 梗舟	
川風に響く太鼓や五月場所 <small>川風に響くの雰囲気が良いですね。</small>	ポニーテール並んで揺れる街薄暑 <small>響き合っている。姉妹が走っているのか、ポニーテールと薄暑がうまく響き合っている。夏らしい。並んで揺れるにやられました。</small>	彼の人の二の腕眩し立夏かな	父誘ひ三社祭の神谷バー	底のチェリー標本のごとソーダ水	宅配の鱸切り身や昼静か	カーネーションなまり明かやレジ打つ娘	鏡へと角度を測る夏帽子 <small>中七の措辞が絶妙。</small>	出がらしの息吹き返す新茶かな	初音まだひとつ足らぬや浅き朝	指切りの逢瀬の朝や若葉風 <small>昭和の初恋。なんか懐かしく読ませていただきました、甘酸っぱい青春でした。高校生のカツプルか。ピュアで瑞々しい句。</small>	新緑に染まるダム湖やホットドッグ	荒ぶ世の砂乾きゆく春の果て	新樹光真中庭師のピアスかな	大の字に草凹ませる春の昼 <small>春の心地良さ「草凹ませる」までが秀逸です。</small>	
龍野ひろし	霜里	きりり	渋谷きいち	小林土璃	総太郎	和田イチ子	朝子	平野 楽	立野音思	新 曆文	秋谷信一	高松和永	神谷たくみ	春代	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年五月
朝子 絵夢				展乎		かれん 順一	しんい	光雲2 春代	佳月					暦文 きいち	
公式のみなうつくしき初茄子 <small>シンプルで美しい公式と季語の初茄子の取り合わせが抜群。</small>	昼寝してネル着たおやじ想いだし	糸桜湧き来る風によるめきぬ	初夏の山歩き疲れて一周し	ファミレスの浅利のスープに癒されて	明易し紫ベスト古稀の父	さざ波をひらきゆくなり夏の鴨 <small>池の面の漣を夏の鴨が泳いでいく様子が見える。夏の鴨に爽快さを感じました。</small>	傷癒えし君の背涼し木々の音	青蜥蜴ウルトラCの宙返り	明易や眠らぬラジオ深夜便 <small>若いころはラジオの深夜放送に癒されたものです。</small>	カラオケのマイク握れば明易し	海風に薔薇の香匂ふイタリー館	張力や跳力のプロあめんぼう	消灯に鎮まる団地梅雨の月	ぶらんこで君待つ夜や十五の日 <small>毎月15日は、、、。尾崎豊と違う15の夜も良い。</small>	
展乎	宇田靖之	北郷興亜	石川順一	佐藤幹子	おにこ 長谷川	しんい	峰岡誠慈	岡崎梗舟	青木鶴城	染谷風子	持永喜夫	絵夢	かれん	高田はっち	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年五月
	凡士	のり子 曆文 佳月		和永 佳月 霜里	たくみ 名負人	順一	くるみ	つぶ金 風子	総太郎 米山 喜夫		風子 きいち 田猫		和永 名負人		
ほうたるの消えし波間の闇深し	母の日や古きビデオに母の笑み	空き缶一つあれば夏野に暮るるまで	甚平着て昭和の自模りこの御世に	会葬の緩やかに解け薄暑光	草笛を吹きて母より逃げしこと	熊手もて掃きよせらるる夏椿	三年詠みニ〇〇句目いま青葉かな	花あやめ滅紫（けしむらさき）の帯解く	病室の窓を切り裂く夏燕	金雀枝のしだれる先の高い堀	無印をユニクロに替へ更衣	白日傘老いらくの恋はじまりぬ	君はもういないのですね青時雨	我家では紅一点や芥子の花	
春代	高松和永	神谷たくみ	瞳人	くるみ	春駒	ありぎりす	雪待月田猫	光雲2	森佳月	しーしー	河野凡士	新井のり子	つぶ金	米山カロ ーリング	

さみしいですね。

どうでもよいことを俳句にしたところが俳句的。こんな衣替えもある、面白い。

窓の外からのお見舞いです。病気に負けないでと応援する夏燕 ガンバレ！

「花あやめ」は誰のことかと想像させるのがこの句の良さ。

花の掃除は大変でしょう。

静かに悲しみが沁みてきます。寂しくもあれ良いお別れが浮かびます。

空き缶一つで一日遊べた昭和の子供達。子供の一人遊びの景が見えます。

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
	展平 音思 土璃 春代		瞳人		春代				瞳人	風子 幹子	幹子			たくみ 音思 きいち はっち 梗舟 楽
坂の上潮の香に会ふ薄暑かな	駅弁に香るふるさと麦の秋 <small>季語が効いていて、すがすがしい。</small>	消灯に鎮まる団地梅雨の月	雨蛙泣くな明日は決勝戦 <small>明日へ闘志満つ気配ありあり。</small>	ぽとぽとと葉はクツシヨンの若葉雨	白シャツの前立て硬き薄暑かな	ほうたるの右に左に迷ひ恋	娘の家に長滞在や草も刈り	君残すメロンソーダの色薄れ	飲み水を少し冷やして五月来る <small>夏はもうそこに。</small>	目を閉じて眠るライオン風薫る <small>百獣の王のこの威厳と余裕。</small>	フェルメールの真珠の光夏はじめ <small>絵のなかの真珠の光に夏が訪れたことを感じる繊細な感性がお見事と 思います。</small>	角曲がりや一個百円夏蜜柑	祝詞聞く真神の耳や風薫る	眼科医より新緑と言ふ処方箋 <small>目にも心にも、新緑の季語がいきている。優しい先生を想像します。 面白い。処方箋に持つていくところがにくいです。</small>
持永喜夫	龍野ひろし	かれん	高田はっち	渋谷きいち	霜里	きりり	和田イチ子	小林土璃	総太郎	立野音思	朝子	平野 楽	秋谷信一	新 曆文

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年五月
							のり子 くるみ 春駒	つぶ金	光雲2 朝子			たくみ 総太郎 霜里 しーしー			
						アイリスの束はバケツに朝の市	夏燕建設事務所に人は無し <small>夏燕と建築事務所の立ち位置が絶妙。</small>	茅葺きや高々と立つ鯉幟	風薫るみなとみらいのカフェテリア	青歯朶や弱気の虫を従へて	若い子にハグ許された初夏のせい	子供の楽しさが伝わります。「三部屋」とは豪勢な。 子供の日三部屋貫くプラレール	せいくらべ元号重ぬ祝五月	夢追ひの八十の夜遊び明易し	
						佐藤幹子	石川順一	しんい	長谷川 おにこ	青木鶴城	峰岡誠慈	岡崎梗舟	絵夢	染谷風子	